

■ 概況

9/15～9/21のNYMEX・WTI先物市場は、82.94～85.73ドルの範囲で推移した。

9月22日は、前日のロシアの部分的動員令発令によるウクライナ情勢の緊張の高まり、中国の主要製油所の稼働率向上観測から、反発した。ただ、米に続く、イングランド銀行、スイス銀行、インドネシア銀行など積極的な利上げによる世界的な景気後退懸念が、上値を抑えた。11月限の終値は前日比0.55ドル高の83.49ドル。

週末23日は、今週の世界各国の相次ぐ利上げを受けて、経済停滞懸念がさらに拡大、欧米株式市場低落による投資意欲低下、ドル高進行に伴う原油先物の割高感も加わり、大幅反落、節目の80ドルを割った。11月限の終値は前日比4.75ドル安の78.74ドル。

週明け26日は、引き続き、世界的景気後退懸念を中心に、株安、ドル高進行で続落、1月3日以来の安値を記録した。ただ、ロシア産石油への最高価格設定をめぐる欧州各国の見解が割れているとの報道が下値を支えた。11月限の終値は前日比2.03ドル安の76.71ドル。

27日は、メキシコ湾でハリケーンが発生、シェブロンが海上生産施設の操業を停止したとの発表があり、供給懸念から、反発した。10月5日のOPECプラスの閣僚協議を前に、減産継続観測も出始めており、昨日の安値の反動からの買いも多かった。11月限の終値は前日比1.79ドル高の78.50ドル。

28日は、前日のドイツ向けロシア産天然ガスパイプライン「ノルドストリーム」と「同2」の3か所の爆発によるエネルギー全体の供給懸念、ハリケーン接近に伴う供給懸念、OPECプラスの減産観測に加え、予想を上回る米国石油在庫の取り

崩しで、大幅に続伸し、終値で80ドルの大台を回復した。11月限の終値は前日比3.65ドル高の82.15ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は、9月15日～21日の間、91.80～93.20ドルの範囲で推移した。9月22日90.70ドル、26日85.80ドル、27日85.20ドル、28日85.20ドルで推移した。

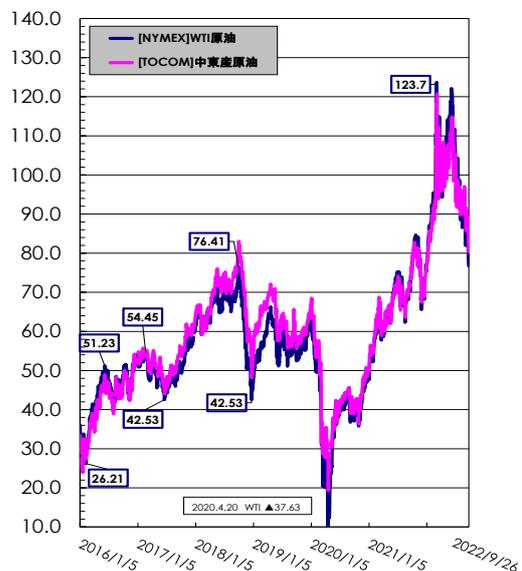
為替は、9月15日～21日の間、143.11～143.73円の範囲で推移した。9月22日144.51円、26日144.02円、27日144.51円、28日144.73円で推移した。

財務省が9月29日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、9月上旬の原油輸入平均CIF価格は、95,977円で、前旬比1,414円高、ドル建て112.03ドルで前旬比0.30ドル高、為替レートは1ドル/136.21円だった。

そのような中で、9月26日時点の価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油は1円の値上がり(18日ベース)であった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値上がりであった。ガソリンの全国平均価格は169.5円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は35.7円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/18 ~ 9/24	2,878 ▼ -210 ▲	-
	トッパー稼働率 (%)	"	74.8 ▼ -5.4 ▲	-
	原油在庫量 (千kl)	9/24	10,180 ▲ 398 ▲	-
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/26	80.34 ▼ -8.89 ▲ 5.5	
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/26	76.71 ▼ -9.02 ▲ 1.3	
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	112.03 ▲ 0.30 ▲ 38.17	
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	95,977 ▲ 1,414 ▲ 44,933	
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	136.21 ▼ -1.64 ▼ -26.34	
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/26	145.02 ▼ -0.74 ▼ -33.27	

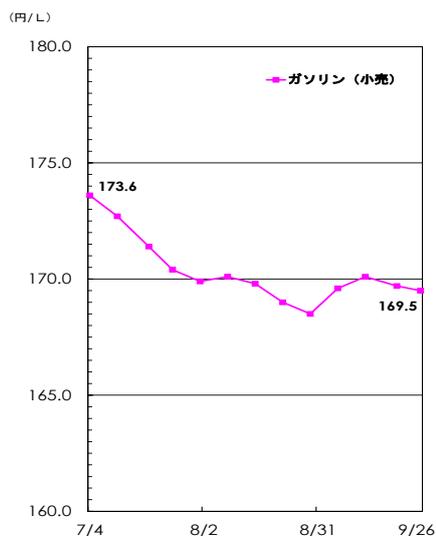
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/18 ~ 9/24	740 ▼ -160	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	818 ▲ 21	▲ -	
	輸出	"	12 ▼ -88	▼ -	
	在庫	9/24	1,508 ▼ -89	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/20 ~ 9/26	75.3 ▼ -0.9	▲ 7.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/20 ~ 9/26	78.3 ▼ -0.3	▲ 12.3
		(TOCOM/中部)	9/26	74.4 ▼ -0.6	▲ 7.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/26	169.5 ▼ -0.2	▲ 10.8	

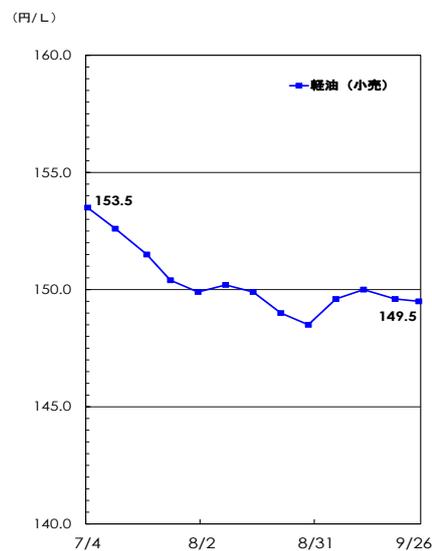
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

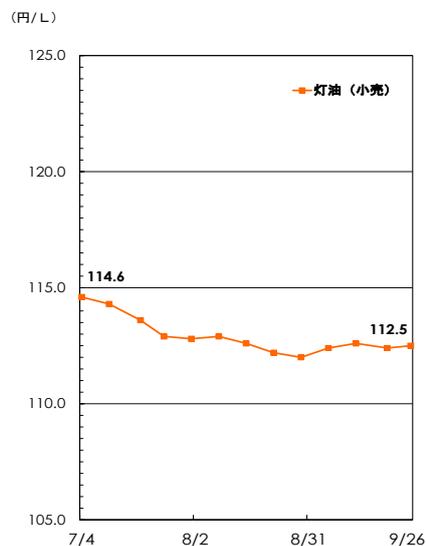
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/18 ~ 9/24	705 ▼ -21	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	521 ▼ -34	▲ -	
	輸出	"	304 ▲ 88	▲ -	
	在庫	9/24	1,301 ▼ -121	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/20 ~ 9/26	76.0 ▼ -0.5	▲ 7.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/20 ~ 9/26	77.8 ▼ -1.6	▲ 7.7
		(TOCOM/中部)	9/26	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/26	149.5 ▼ -0.1	▲ 10.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/18 ~ 9/24	144 ▲ 30	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	78 ▲ 42	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -11	▶ -	
	在庫	9/24	2,175 ▲ 67	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/20 ~ 9/26	77.4 ▼ -0.1	▲ 8.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/20 ~ 9/26	80.5 ▲ 1.8	▲ 14.6
		(TOCOM/中部)	9/26	77.0 ▶ 0.0	▲ 10.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/26	112.5 ▲ 0.1	▲ 14.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

今週の石油先物市場は、前半、世界各国の積極的な金利引き上げ継続による景気減速懸念の拡大とそれに伴う世界的な株安、ドル高進行で、下落したが、後半、ウクライナ情勢の緊迫化、ドイツ向けガスパイプラインの爆発、OPECプラスの減産観測、ハリケーン発生に伴う供給懸念などで上昇した。WTI終値は9月22日83.49ドルから、23日に80ドルを割り、26日には76.71ドルと9か月ぶりの安値を記録したが、28日には82.15ドルと回復した。

9月28日発表の23日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫情報は、原油在庫が前週末比20万バレル減(市場予想:同40万バレル増)、ガソリン在庫は同240万バレル減(市場予想:同70万バレル増)、中間留分は290

万バレル減(市場予想:同10万バレル減)で、予想に反する、または上回る取り崩しであった。

EIAによると、9月26日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.7セント値上がりの1ガロン3.711ドル(142.0円/ℓ)と15週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比7.5セント値下がりの1ガロン4.889ドル(187.1円/ℓ)と4週連続の値下がりであった。

ペーカーヒューズ社によると、9月23日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比3基増の602基と2週連続の増加となった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年9月18日～9月24日に休止したトッパー能力は12.9万バレル/日で、前週に対して9.4万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は287.8万klと、前週に比べ21.0万kl減少。前年に対しては8.2万klの増加。トッパー稼働率は74.8%と前週に対して5.4ポイントの減少、前年に対しては2.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/17.8%減、ジェット/48.4%減、灯油/26.0%増、軽油/2.9%減、A重油/13.9%減、C重油/42.6%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は30.4万kl(前週比8.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、灯油が増加、その他の油種で減少した。前年比では灯油、A重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は81.8万kl(対前週2.5%増)と2週連続で増加した。ジェット4.8万kl(対前週51.8%減)、灯油7.8万kl(対前週112.8%増)、軽油52.1万kl

(対前週6.0%減)、A重油14.6万kl(対前週14.1%減)、C重油17.0万kl(対前週28.5%減)。

(単位:千kl)

	今週 (9/18 ~ 9/24)	前週 (9/11 ~ 9/17)	前週比	
ガソリン	818	797	▲ 21	(3%)
ジェット燃料	48	101	▼ -53	(-52%)
灯油	78	36	▲ 42	(117%)
軽油	521	555	▼ -34	(-6%)
A重油	146	170	▼ -24	(-14%)
C重油	170	238	▼ -68	(-29%)
合計	1,781	1,897	▼ -116	(-6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月24日時点の在庫はジェット、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンは150.8万kl、前週差8.9万kl減。前年に対しては18.4万kl少ない。

灯油は217.5万kl、前週差6.7万kl増。前年に対しては31.1万kl少ない。

軽油は130.1万kl、前週差12.1万kl減。前年に対しては24.6万kl少ない。

A重油は72.2万kl、前週差0.1万kl増。前年に対しては2.0万kl少ない。

C重油は164.9万kl、前週差12.1万kl減。前年に対しては35.6万kl少ない

(単位:千kl)

	今週 (9/24)	前週 (9/17)	前週比	
ガソリン	1,508	1,597	▼ -89	(-6%)
ジェット燃料	872	863	▲ 9	(1%)
灯油	2,175	2,108	▲ 67	(3%)
軽油	1,301	1,422	▼ -121	(-9%)
A重油	722	721	▲ 1	(0%)
C重油	1,649	1,770	▼ -121	(-7%)
合計	8,227	8,481	▼ -254	(-3.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月20日～26日のドル建て指標原油価格は、前週比値下がり、為替レートの円安がこれをわずかに相殺したが、元売会社の原油コストは、1.0円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額36.7円を加えたコスト上昇額35.7円に、補助金35.7円(計算上36.4円になるが、35円を超える値上がり分は半額補助)が支給されることから、

次週(9/29～10/5)の元売会社の実質的な卸価格は横ばいとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月20日～26日の製品スポット市況は、9月13日～19日平均と比べ、先物の灯油の値上がりを除いて、他の全ての取引・油種で値下がりした。

直近週(9/20～9/26)の陸上スポット価格平均値は、前週(9/13～9/19)比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.5円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(9/20～9/26)に、前週(9/13～9/19)比で、ガソリンは0.8円の値下がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油0.5円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油は1.8円の値上がり、軽油は1.6円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (9/20～9/26)	前週 (9/13～9/19)	前週比
	レギュラー	75.3	76.2
灯油	77.4	77.5	▼ -0.1
軽油	76.0	76.5	▼ -0.5

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (9/20～9/26)	前週 (9/13～9/19)	前週比
	レギュラー	78.3	78.6
灯油	80.5	78.7	▲ 1.8
軽油	77.8	79.4	▼ -1.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/20～9/26実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.9	▼ -0.3	▼ -0.6
灯油	▼ -0.1	▲ 1.8	▲ 0.9
軽油	▼ -0.5	▼ -1.6	▼ -1.1
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の169.5円、軽油も同0.1円安の149.5円、灯油は18%ベースで同1円高の2,025円(1%ベースでは同0.1円高の112.5円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは11都県、横ばいは5県、値下がり31道府県だった。全国最安値は宮城県と埼玉県の162.3円、その次は岩手県の162.8円であった。他方、最高値は長崎県の182.3円だった。最も値上がりしたのは東京都(前週比1.1円高)、横ばいは愛媛県等5県、最

も値下がりしたのは京都府、福井県、熊本県、富山県、岡山県の5府県(同0.7円安)だった。

次回調査時(10/3)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/26)	前週 (9/20)	前週比	直近高値
レギュラー	169.5	169.7	▼ -0.2	08/8/4 185.1
灯油	112.5	112.4	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	149.5	149.6	▼ -0.1	08/8/4 167.4

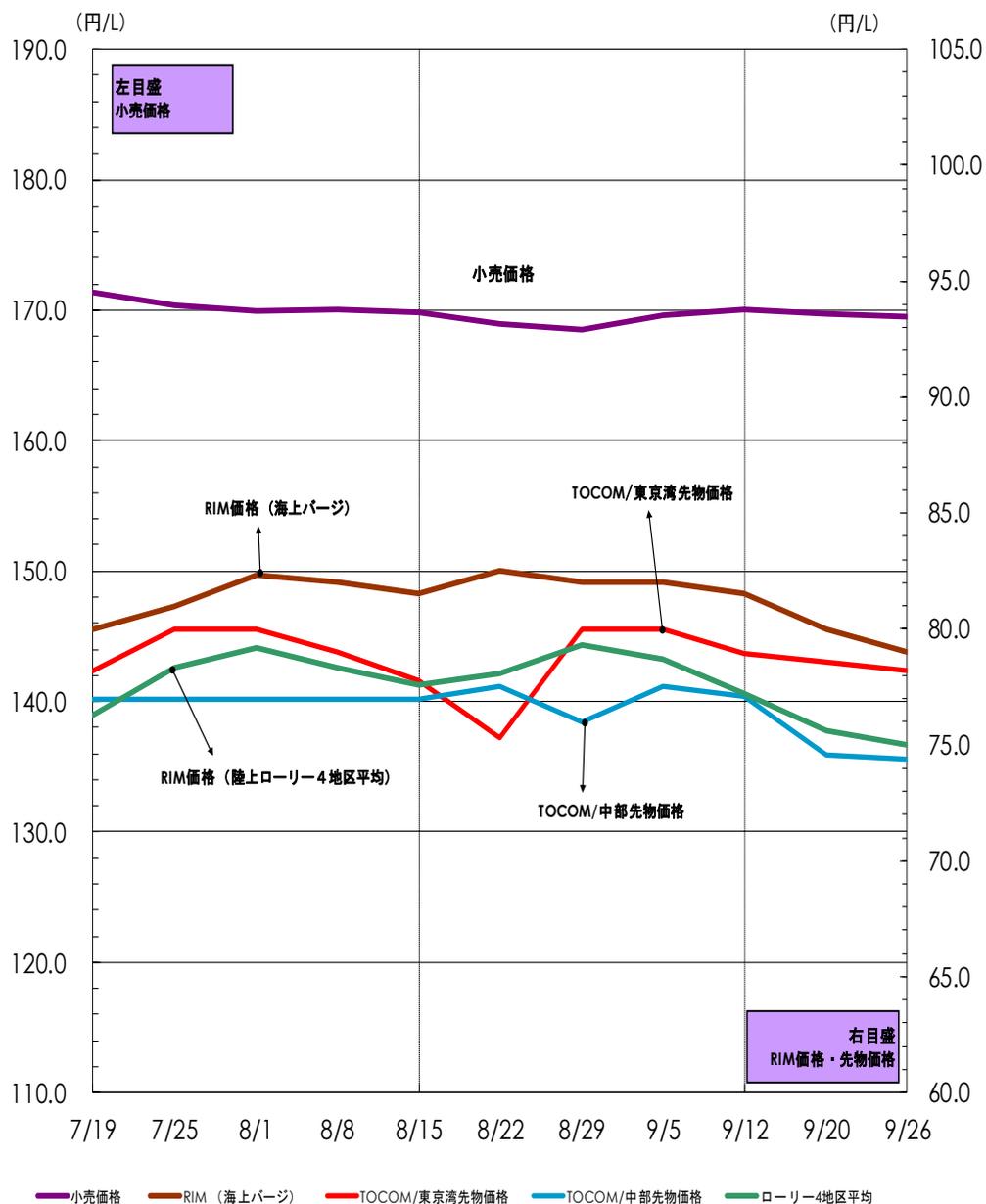
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/7/19 ~ 2022/9/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2022第26号)の公表は、10/7(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。